

高校生と医学生のための 地域医療体験 報告書



2015年8月20日－24日

主催 大阪医科大学地域総合医療科学寄附講座

後援 神河町
公立神崎総合病院

概要

目的

高校生

将来、医療従事者を目指す上での動機付け・学習意欲の向上
地域医療の現場を体験し、現状と課題とを考える
他の地域や文化背景の人達と交流し、考え方の幅を広げる

医学生

地域医療の実態を知り、自らの将来を考える契機とする
高校生との議論を通じて初心に立ち返ることができる
高校生と共に活動することによりリーダーシップの涵養を図る

神河町の方々

神河町をよりよく知っていただく
未来の医師が神河町に来るきっかけづくり
地域医療の現状を、自らと外部からのまなざしをもって再認識する

日程

平成27年8月20日（木）～24日（月） 計5日間

場所

公立神崎総合病院（8月20日～23日）
大阪医科大学附属病院（8月24日）

参加者

大阪医科大学 4名
東京広尾学園高校 4名
兵庫県立神崎高校 4名
公立神崎総合病院

協力者

かんざき訪問看護ステーション、ケアステーションかんざき
神河町健康福祉課、神河町社会福祉協議会
地域医療を守る会、すずらんの会（病院ボランティア）
学生民家宿泊先

主催・後援

主催：大阪医科大学地域総合医療科学寄附講座
後援：神河町・公立神崎総合病院

1日目

8/20 (木)

開会式
歓迎挨拶
アイスブレیکنング
参加者自己紹介

- ・ 公立神崎総合病院に関する概要
- ・ 地域医療研修に関するミニレクチャー

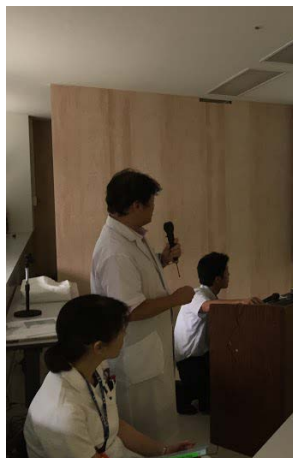
プログラム紹介
白衣貸与式
夕食 (歓迎バーベキュー)

12:00 集合

14:00 開会式

白衣貸与式

打村院長のご挨拶



18:00 宿泊先へ

「地域医療を守る会」の方々、病院の職員の方々と地元の食材でのバーベキュー



夜はコテージで、大学生と高校生が語り合う

2日目

8/21 (金)

体験
訪問看護・訪問リハビリテーション
病院内探検ツアー
昼食（古民家再生レストランで）
振り返り
懇親会

9:00 体験

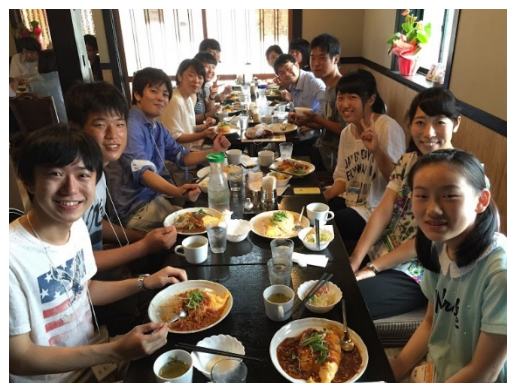


静脈の点滴確保の練習



12:30 昼食

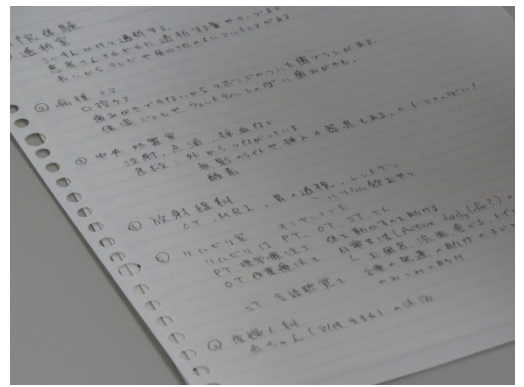
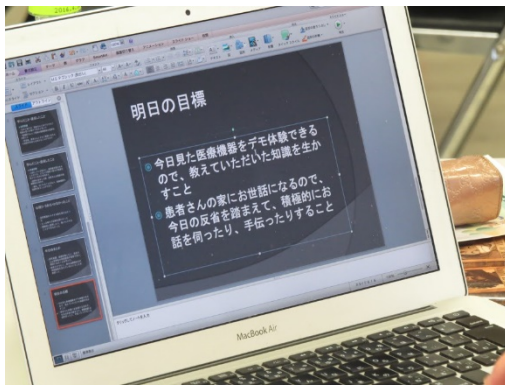
地域おこしの一環の古民家再生のレストランで



13:30 体験



16:30 振り返り



17:30 懇親会



3日目

8/22 (土)

体験

手術室見学・腹腔鏡操作体験

縫合体験・心臓超音波検査・腹部超音波検査

各種講義

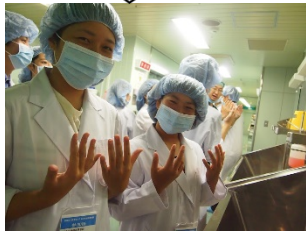
昼食（病院食を体験）

振り返り

民家へ宿泊

9:00 体験

手洗いを終え、いざ手術室へ



12:30 昼食

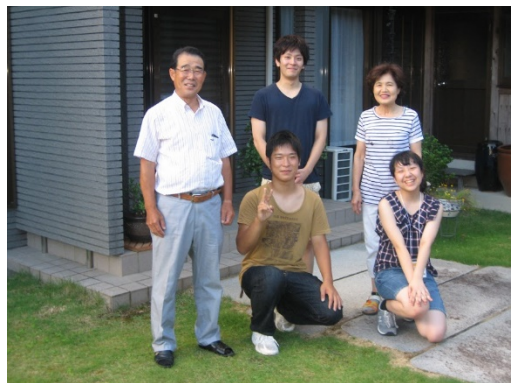
病院食のお味は？



13:30 振り返り



15:30 民家さん宅に宿泊



4日目

8/23 (日)

振り返り、まとめ
閉会式

9:00 振り返り・発表



11:30 閉会式

中山先生からのご挨拶



5日目

8/24 (月)

大阪医科大学 見学 (広尾学園のみ)

8:30 学生教育 見学

4年生のPBLチュートリアル教育
Problem Based Learning



大学内にある6回生の
学生勉強部屋



9:00 外来・病棟 見学

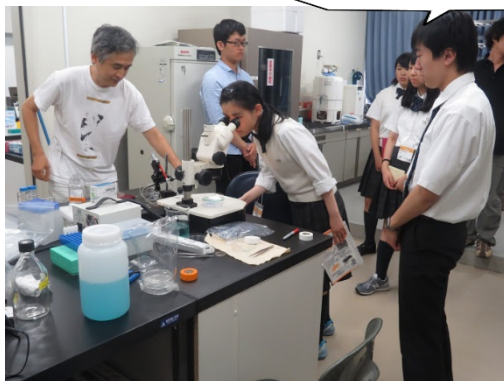
総合診療科外来を実際に見学



図書館



小野先生の生理学研究室で



体験を終えて・・・

高校生の感想

たくさんの方とお話する機会があり、多くの視点から見た神河町や地域医療を知ることができたのが楽しかった。特に初日のバーベキューでは初めて会うにも関わらず、多くの方が親しく話しかけてくださり、また一人一人温かい人柄であったのが非常に嬉しかった。また、病院内を見学する時では、どの先生方や看護師さんも詳しく丁寧に教えてくださり、みなさんお忙しい中であるにも関わらず高校生である自分相手にこんなに熱意を持って接して下さることに感激した。今回、多くの方が地域医療を知ってもらおうと真剣に作ってくださったこの企画に参加できたことはとても光栄なことであり、また将来の夢である医師を目指す上で、自分が今後の日本の医療にどう携わっていきたいのか、どのように変えていきたいのかを考えさせられる素晴らしいきっかけとなった。早く大学に入って医療のことを知りたと思うのと同時に、今高校生だからできること、感じられることを大切にしようと感じた。

広尾学園2年生 男性

いろんな人のお話を聞かせて頂いて、自分になかったものを吸収することができたと思います。また幅広い年齢の方とお話しさせていただいたことはすごく貴重な体験ができました。

神崎高校2年生 女性

1番印象的であった現場はオペ室です。幼い頃、患者として入ることはありましたが、見学者としては初めてでした。自分が麻酔で眠った後、お医者さんや看護師さん達はこういう風に動いていたのかと知ることができました。オペ室だけでなく、今回研修で見させて頂いた現場全てが私の中で印象に残っています。ありがとうございました。

広尾学園2年生 女性

訪問看護では、一人暮らしの方の家に訪問させていただいてお話を伺ったのですが、私たちに楽しそうに家族や趣味の話をして下さいました。今まで訪問看護では治療をして、健康に暮らせるようにしていると思っていましたが、看護には話をして心を健康にすることも含まれると思いました。私が患者さんと話をすることで、患者さんを健康にしていると思うと嬉しく思いました。

広尾学園2年生 女性

私は自分が今生きていることを奇跡だと思っています。この研修を終えて考えると、私はこの奇跡をただ医師として働くためではなく、今回の神河町のように人の繋がりが見えるあたにかいところで患者さんに寄り添うために費やしたいと思いました。医師になりたいとは思っていましたが、地域に貢献したいという気持ちが強くなりました。

そう思わせられたのは地域の方と交流の機会があったからです。神崎病院の先生方は各専門に一人か二人という状況でしたが、自分がこの地域のこの専門を担っているんだという気持ちが伝わりました。看護師さんや保健師さん、ソーシャルワーカーさん、地域医療を守る会の方からもそれぞれのレクチャーで、この地域に対する思いがあることを知りました。一人ひとりの言葉にたたかみを感じ、こんな中で医療を行うことができたならどんなにいいだろうと思いました。

また、彼らは、自然の中で人間らしい暮らしをしていました。人間とは、本来自分の身体が健康であるように努めて生きるべきだと思います。そしてもし何かあったらまず近くの医院で見てもらえるという安心がある。その、安心を与える側になりたいと思いました。

広尾学園 2 年生女性

医師不足でありながらも、不足しているなりの配慮がされていて、たくさんの人との連携で成り立っているということを知りました。

いろんな人のお話を聞かせて頂いて、自分になかったものを吸収することができたと思います。また幅広い年齢の方とお話しさせていただいたことはすごく貴重な体験ができました。

神崎高校 2 年生女性

地域の方々を大切に思っておられるなと感じました。

従事者が不足していて高齢者が多くなって看護師のみなさんがいろいろな地域に車で訪問されているのに実際行くことが出来ました。お宅によって事情がちがうので資料方法も考えておられてそこが印象に残りました。

色々なお話が聞けたり、地域の事を話したりしてとても楽しかったです。

幅広い交流ができ、自分の知らないことをたくさん吸収することができたのでいい体験ができました。

神崎高校 2 年生女性

地域医療は病院だけでなく住民・行政などが一つとなつてするものだとわかった。

第一に早く病気を治すのではなく、患者の意志を第一にすること。

神崎高校 2 年生男性

医学生のご感想

見てもらったこと：地域に入り、実際の患者さんがどのように生活しているか。特に田舎のお互いの距離が近い人間関係の一端を見てもらったことは、広尾学園のK君にはとてもよかったように感じた。また神崎高校のS君には、近い距離にありながら普段知ることのできなかった病院の実態を見てもらったことが、よい収穫になったように感じた。

感じてもらったこと：地域医療のよいところを十分に吸収していったように見えた。特に訪問リハビリにおいて、患者—医療者間の距離感の近さが味わえたことは、とてもよかった。

大阪医科大学6年生男性

やはり地域の問題というのは体験しないとわからない部分もあると思いますし、こうした経験を通じて、問題点だけでなく人と人のつながりなど、いいところも感じられたことが大きいと思います。

それを少しでも同じ医療関係者に伝えていくことが、恩返しにもなると思いますし、私たちのキャリア形成にもつながると思います。

ほとんどの人が地域医療といったことの現状を悪いことだけ聞いているという現実がある気がします。

そのため地域医療に従事することだけでなくこういった会を開催することや、講演するだけでも変わってくるのではないかと感じました

大阪医科大学6年生男性

見てもらったこと：

地域医療の現場で働く、医師、医療スタッフ、また地域住民の方々が、どのように役割分担をして、お互いを支えあっているのか。一人一人の役割や負担が大きい地域医療の現場だからこそ、一人一人の存在が大きく、大切だということです。

感じてもらったこと：

病院と患者さん、という立場以上の、「地域」というまとまりで、誰もが今の医療の現状を理解し、なんとか良くしていこうと協力しあっている姿を見せていただきました。どの立場の人にも、異なる思いと共通の思いがあるのだということを感じてもらったと思います。

大阪医科大学6年生女性

見てもらったこと：

- ・実際の医療現場や地域に根差した医療、そしてそれを支える地域の方々の取り組み
- ・地域医療に関わる先生方の責任感や温かさ
- ・地域の方々の優しさや日々の努力

感じてもらったこと：

・二人とも将来の職業を固めていたが、今回さまざまな職業を知り経験したり、お話を伺うことで、自分の可能性に気づき、選択肢が広がったようだった

大阪医科大学6年生女性

地域医療体験を終えて



公立神崎総合病院
院長 打村 昌一

参加された学生の皆さん、ここ神河の地での体験学習はいかがでしたでしょうか？
私たちは、この夏の数日が、迎える側にとっても、また訪れた方にとっても、大変有意義であったと確信しています。

兵庫県の山間部にある、この地域は、自然に満ち溢れており、ここで生活している方々の優しさ、人情も深く残されているところです。

当地で医療という分野を担っている私たちを見て、皆さんはどのように感じられましたか、本末を見極められましたでしょうか。

一方現地の高校生諸君にとって、都会から志を持って勉学に励む同年代の友人に良い刺激を受け、また自分たちの足元にある病院のことを改めて考える良い機会になったことと思います。

この研修が、皆さんの努力によって実のあるものになったことは、プレゼンテーションでの発表における成長過程、研修を終えて病院前で別れる時の心の汗が教えてくれます。私たちにも新鮮な感動を与えてくれました。

最後に素晴らしい機会を与えてくださいました鈴木教授を始め、大阪医大のスタッフ、広尾学園の先生方に心からの御礼を申し上げます。

地域医療体験を終えて



大阪医科大学地域総合医療科学寄附講座
特別任命教員教授 鈴木 富雄

この夏、忘れられない素敵な出会いが神河町でありました。

東京広尾学園高校と地元の県立神崎高校の高校生、そして大阪医科大学の医学生。三者三様異なる地域で育ち、夢と希望に満ち溢れた若者たちが、美しい自然と温かい人情に恵まれた神河町で出会い、地域の方々のご厚情を受け、大きな感動と多くの学びを得ることができた宝物のような数日間でした。このような素晴らしい体験実習を全面的にご支援いただいた公立神崎総合病院の職員の方々、神河町の行政の方々、そして地域医療を守る会を主体とした神河町の地域住民の方々に、改めて心からの御礼を申し上げます。この実習を通じて、東京広尾学園高校の皆さんには、医療現場の面白さと厳しさを感じていただけ、将来の夢へのさらなるモチベーションが上がったかと思います。県立神崎高校の皆さんには、知っているようで実は知らなかった自分たちの地域の医療と生活の結びつきや、神崎総合病院の重要性などを再認識できたかと思います。大阪医科大学の医学生には、高校生とのグループのリーダーシップをとりながら、実際の地域医療の現場に入り込み、その深さと課題なども感じてもらえたかと思います。

地域の医療と教育と人々の暮らしはどれも欠かすことのできない輪のようなものです。この実習を行わせていただくことにより、緑と光に溢れた素晴らしき町、神河町のさらなる活性化に、微力ながらもお役に立つことができたら幸いに存じます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。